

木工研究会 木工家のための仏壇講習会

開催日時:2015年10月24日(土) 午後1時30分から5時まで

会場:松本市 長野県工業技術総合センター

参加者:38名 (関西をはじめ他県からの参加者もあり)

報告者 狐崎ゆうこ

講師:藤澤慎一氏 藤澤仏壇店代表 信州木工会副会長

仏壇・仏具製作36年、藤沢仏壇店3代目。

全国伝統的工芸品仏壇仏具展経済産業大臣賞など受賞。

鷺森誠氏 誠仏堂代表

仏壇金具製作、伝統工芸士。平成26年信州の名工受賞。

一般の木工家が仏壇や厨子を製作する例が増えている。しきたりを知らずにとんでもないものを作っているのでは?と不安な木工家のために、専門家に基礎知識を教えてもらおう、というのが本講習会の目的である。報告者は中でも仏壇には全く無知である。まとめ方が荒っぽいかもしれないがご容赦願いたい。

講習会前半は藤澤慎一さんによる講義、後半は金箔押しと彫金の実演と体験が行われた。まず前半の講義の内容から。

**仏壇は位牌を入れる箱? 仏様を祀らなければならないのか? まずは仏壇の歴史を振り返り、その使われ方を考える。**

## 仏壇の歴史

日本では元来仏教などが中国、朝鮮より伝わるまで祖先の霊を祀る祖霊信仰が中心だった。仏教がわったのは7世紀頃だが、12世紀ごろまでは皇室の宗教にすぎず、民衆に浸透してはいなかった。

仏壇の起源は仏教とともに朝鮮半島から伝わった箱で「龕室(がんしつ)」「中には祖先の官位を記録した板=位牌や、経典を収める)、また木や石で仏像を彫刻した「仏龕(ぶつがん)」。

日本オリジナルのものは8世紀の「玉虫厨子(たまむしのずし)」で、これが現存する厨子の起源とされている。中には仏像を納める。

一方民間では祖霊信仰を基に「御霊舎(みたまや)」が作られていた。これは個々の先祖を祀っている。「御霊舎」は現在も使われており、地域などにより形も違う。ちなみに「神棚」は天照大神、氏神など特別な神様を祀るもので、「御霊舎」よりも上の方に設置する決まりがある。

17世紀頃までは「龕室」、「仏龕」、「厨子」、「御霊舎」が混在していた。

さて13世紀より浄土真宗を中心に仏教が各宗派となって民衆に広まっていき、現在の「仏壇」の原型が作られるようになる。

浄土真宗では17世紀初め頃に東西本願寺が建立された。その信者たちは本願寺の建物の一部分をミニチュア化した。これが現在の「金仏壇(きんぶつだん)」の起源で、「お内仏(おないぶつ)」と呼ばれる。本願寺と同じく中に本尊と開祖である親鸞、法然を祀っている。祖先を祀るものではなく、それには別に専用の箱が使われていたらしい。

18~19世紀になるとその他の宗派で筆筒の一部に造り付けになっている「仕込み仏壇(しこみ

ぶつだん)」が使われた。中には仏像や位牌を納める。ここでいう位牌はまだ現在のものとは少々違うが、個々の信仰の対象をまとめてコンパクトに収めた点で現在の仏壇につながるものである。

20世紀からは仏教色は薄れ、無宗教やキリスト教徒の人たちでも仏壇を利用するようになる。中には位牌や写真のみを納める場合もある。

## では、仏壇や厨子に最低限必要なものは何か？

※厳密には仏壇と厨子は異なるが、あまりこだわらなくてもいいだろう。

仏壇…本来は本尊、開祖(その宗派を始めた人)、位牌や過去帳(ともに先祖を象徴するもの、過去帳は浄土真宗で使用する)を祀る。

厨子…本来は仏像のみを祀る。現在は神聖な場所として個人にとって大切なものを納める箱ともなっている。

## 仏壇、厨子共に必要と思われるもの

### 1 扉

宗派にもよるが、開いた状態が普段の姿。だから丁番は開いた時に隠れるように取り付ける。マグネットキャッチを上部の真ん中に取り付けるのも避けたい。マグネットの代わりに木片やフェルトで軽く扉を押さえる方法もある。扉の形も開き戸だけでなく、引き戸、巻戸でも構わない。

### 2 欄間(らんま)

必ずしも豪華なものでなくてもよい。キリスト教などでは少しアールを付けた板を取り付けるくらいでもいいのではないかな。

### 3 須弥壇(しゅみだん)

本尊を置くための台。本来は仏様の世界(須弥山(しゅみせん)と呼ばれる)を形にしたもので、仏壇の見せ場の一つでもある。当然宗派によって決まりはあるが、自由なデザインも可能。仏像と位牌を並べて置いたら仏像の方が少し高くなるように台を付けたほうが良い。本尊とは中心となる信仰の対象のこと。仏像だけでなく掛け軸(仏様や開祖の絵、またはお経の一部を書いた文字)があるので、フックが必要になることも。

## あってもいいと思われるもの

### 4 三つの間

須弥壇を三つに区切り、中心に本尊、両脇に開祖などを祀る。仏教では宗派が違っても3点セットになることが多い。

### 5 位牌段(いはいだん)

位牌専用の置き場として、須弥壇より一段低く段差をつける。

### 6 膳引(ぜんびき)

引き出し式の台。お正月やお盆など、特別な儀礼の時に霊供膳(ご飯や吸い物、煮物などの器をのせる御膳。れいくぜん、又はりょうくぜんと読む)や供物を備えるときに便利。

## その他諸注意

### ・抽斗

本来は過去帳や先祖の記録を入れる場所であり、ろうそく入れではない。

### ・ろうそく立て・香炉の置き場所

扉の中でなく、外側がふさわしい。ただしコンパクトな仏壇ではろうそくを使わない人も多い。

### ・新しい仏壇を作る際に儀式は必要？

引っ越しなどで仏壇を小さくする場合、仏像や位牌も小さくすることがある。同じものを納めるならば必要ないが、本来は古いものから新しいものへ御魂(おたましい)を入れる儀式をお寺に頼むお客さんに提案して意向を確認したほうが良い。

さて後半の実践編では、金箔押しと彫金の実演を両者一斉に開始。交代で加工の体験も行われる一方で前半の講義について質問する人、見本の厨子などをじっくり観察する人もおり、それぞれ関心のあることに取り組んでいたようだ。

### 彫金(指導 鷲森誠さん)

仏壇の金具に使われる金属は銅、真鍮、最近では白銅も多い。厚さは 0.4 mm~0.8 mmくらい。昔ながらの華やかな模様入りのものや、今風の黒く着色した無地の金具が展示されていた。

今回体験した彫金加工は専用の鑿(たがね)で小さな点の刻みをつけて模様をえがくもの。加工しやすいように焼いて柔らかくしてある。鑿は金具の形、模様によって使い分けるため自分で制作し、数多くの種類がある。

### 金箔押し(指導 藤澤仏壇店)

用意されたハガキや木片に金箔を貼り付ける。手順は接着剤代わりにカシューを薄く塗り、金箔を貼って余分な金をブラシで落とすだけなのだが、ひらひらする金箔相手に四苦八苦。

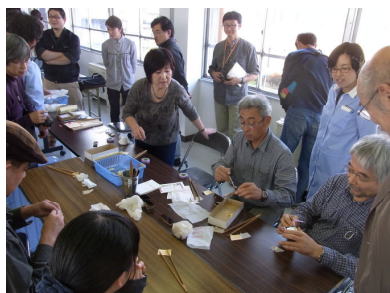
講習会が終わって。

まったくの仏壇素人でも、お客さんとの打ち合わせさえしっかりすれば、自由に作っていいんだよ、と背中を押された気分だ。個人的に興味があった金属加工について教えていただけたこともうれしかった。とはいえ、本格的な仏壇がほしい人は絶対に専門店から購入すべきである。仏壇は奥が深い。

講演する藤澤慎一さん



金箔の体験の様子



彫金の体験の様子

